

見えないこと

柏原中学校 三年 稲上 心和

私の日常生活の中では、障害のある人などはあまり関係が無いと思っていました。ですが、私の姉は最近、右半身不随と高次機能障害を患いました。つまり、一般的にいう障害者です。

右半身不随は、右手が動かなかったり、うまく歩けなかつたりするなどの目で見てわかる症状が多いです。ですが、高次機能障害の内の失語症は話し方で気づくかもしれませんが、自己中心的になったり、怒りっぽくなったり、新しいことを覚えにくいなどの症状は、見ただけでは気づきにくく、一見すると障害の無い人と変わらないように見えるでしょう。そのため、障害のことを理解されにくいかもしれません。

目に見える障害よりも目に見えない障害を理解することのほうが難しいのではないのでしょうか。実際に、私の姉と接するとき、見ているだけでは分からないことが多くあります。例えば、言われたことをすぐに忘れることや、やってはいけないと言われたこともやってしまうことがあります。今はリハビリをととても頑張っていて、今よりもできることが増えるかもしれません。ですが、高次機能障害による性格などの内面の変化はリハビリをしてもあまり改善することができません。なので、周りからの理解がより必要になるのではないかと思います。

障害について理解するのはとても良いことですが、自分の勝手な憶測を押しつけてしまうことは、偏見に近いものになってしまうのではないのでしょうか。なんでもかんでも手助けをしようとするのではなく、必要そうであれば助けるくらいがお互い心地よく過ごせると 생각합니다。また、日常生活の中で障害のある人に出会ったときに、じろじろ見たり、避けたりするのは明らかな差別だと思います。自分と違うところがあると気になってしまうかもしれませんが、誰にだって違うところはあるので気にすることでも無いはずです。みんなと変わらず接してもらえたら、障害がある人も、周りの人も嫌な思いはしないと思います。

私にとって障害がある人も無い人も、もちろん、みんな同じ人間です。ちょっと違ったところがあったとしても、楽しいと思ったり、幸せと感じたりすることも悲しいと感じることも結局はあまり変わりません。普通に生きているだけです。だからこそ、「かわいそうな人」と思うのではなく、自分や周りと同じ人間なのだから、お互い支え合うようなことができればいいなと思います。

私は、姉が障害を持つまでは、歩けることや話せることは普通のことだと思っていました。ですが、そのようなことが普通ではないという人もいます。自分の中の普通に囚われずに人と接することや、障害がある人には気を遣わないとい

けないと思ひすぎたり、自分の先入観で対応を変えたりせず、気を配ったり必要なときに助けたりしたいと姉のことを通して感じました。また、障害のある人のことも、無い人のことも少しでも理解しようとする人が増えれば誰もが過ごしやすい社会につながるのかなと思います。そのためにも、目に見えることだけでなく、目に見えない障害にも気づいたり、理解したりしたいと私は思います。